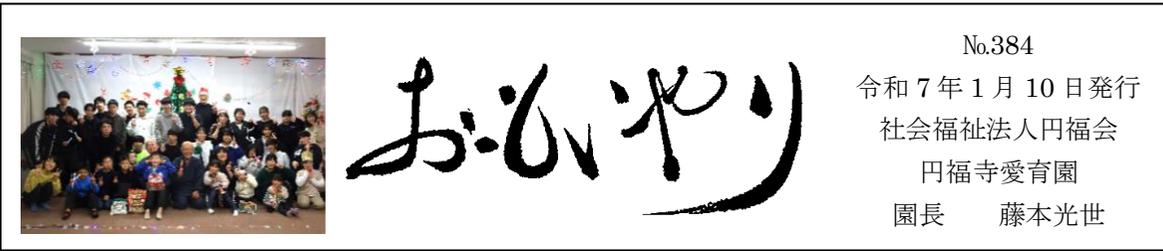


今年のクリスマス会も、とても盛り上がりました。



わかってもらえないなあ

園長 藤本光世

10月に京都から電話がありました。『Oですけど、おっちゃんとお母さんのおまいりに行きたい。もうずいぶんご無沙汰しました。』そんな電話でした。

Oさんは、私より10歳ほど年上なので、90歳に近いと思います。そんなOさんが奥さんと二人で、車で京都から来てくださいました。

Oさんの思い出と言え、私の母が『Oは偉い。Oはまじめで、ひとつところで辞めないで修業して、立派になって。』と常々語っていました。Oさんは、中学を卒業して宮大工の仕事に奉公したのです。『Oはげんのうで叩かれてもがんばったんだよ。』と聞きました。『げんのう』とは金槌のことです。そんなもので叩かれたら、頭蓋骨は陥没してしまうなあ、今では思います。『げんのう』は一つの言い回しと思いますが、厳しい親方についての修業です。それに耐えて、立派な棟梁となったのでした。当時の私は小さかったのでわからなかった。

私の高校の修学旅行は奈良京都でした。京都で成功したOさんに喫茶店に連れて行ってもらい、一緒にコーヒーを飲んだのかなあ、そんな思い出があります。母がOさんに連絡を取ってくれたのです。

おっちゃんとお母さんに育てていただいたから今がある。この頃の人で成功した方はみんなそういいます。そして、おっちゃんもお母さんも亡くなったのに、来てくれるのです。

長野県社会福祉審議会児童福祉専門分科会の議事録が届きました。分科会長は早稲田大学人間科学学術院の教授のえらい方です。専門委員に連盟の会長や里親会の前会長が、そして特別委員に地方自治で支援に携わる方、若者委員として社会的養護経験者で構成されています。

その、第1回の議事録の30pに、令和5年4月にこども基本法が施行され、その第一条に子どもの施策が目指すものとして、『次代の社会を担う全ての子どもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指すということとされています』と書かれていました。今年になって喧しく言われる、パーマネンシー保障も『将来にわたって幸福な生活を送る』ためにあるの

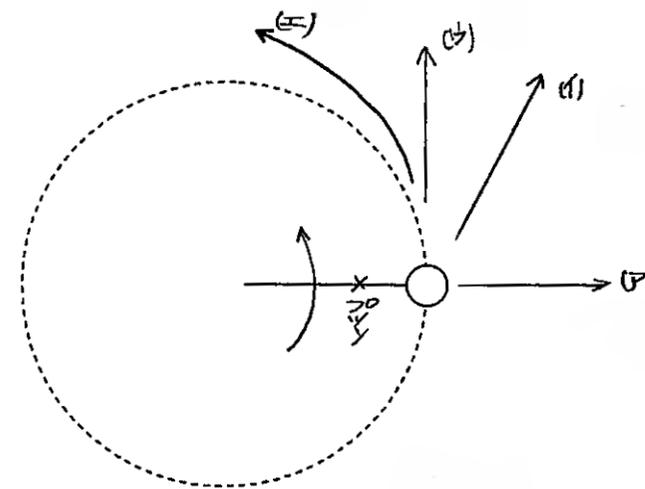
でしょうか。社会は保障してあげる側、子どもは保障を受ける側といった臭いを感じます。Oさんのように、あるいは父母に育ててもらって成功した人たちのように『おっちゃんお母さんに育ててもらったから今がある』という心こそ、『将来にわたって幸福な生活を送った』人たちの証言なのではないでしょうか。『幸福』とは『感謝』の心なのです。保障を受けるだけでは『依存症』や『不満症』を増やすだけで将来にわたって幸福な生活を送ることにはつながりません。

私の父は、愛育園創立50年誌『大きな家族』の中に次のように書いています。

『この児童たちをいかにして自立させるかということは、日本をいかにして自立させるかであり、社会に貢献できる人格に育てようということは、日本国民が世界に尽くす国民になることであり、この施設の子どもたちにプライドを与え、人生の生きがいを与えるということは、日本国民にプライドを与え、人生の生きがいを与えることであり、更に人類の一人として地上に敵なき世界一家の未来を創造することができる可能性を証明することなのであります。これこそが今日の家庭、学校、国家が目指すべき最も重要な問題中の問題なのであります。』と。(12p)

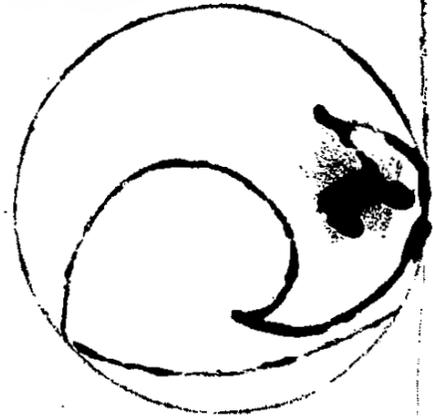
『幸福』は『自立』があって成立するのです。『自立』こそ『幸福』な生活の基礎なのです。父の言葉を借りれば、問題の核心には、日本が『自立』しておらず、日本国民が『プライドを持たず、人生の生きがいを持たず』・・・といった日本国民の問題があるのかなあと思います。だから、難しい。分かってもらえない。分かつてもしてくれない。

私の専門は物理です。なぜ物理を専門に選んだかということ、実験すると結果が分かるからです。理屈をこねて、人をへこまし、騙してもそれが正しいかどうか実験すれば直ちにわかる。子どもの時から集団で育て、自分の考えが正しいのになあと思っても、多勢に無勢でやられてしまう。それが悔しかったのです。



例えば、私の物理の最初の授業の「瞬間の向き」を例にして説明しましょう。瞬間の向きとは、糸にモノを付けてくるくる回して、糸を切ったときにモノが進む向きなのです。皆さん、糸を切ったらどんな向きにモノが飛ぶと思いますか。

(ア) から (エ) までのコースから選んでもらいます。結果は、下の通りです。



皆さん、分かりましたか。当たりましたか。多くの人は間違えるのです。

でも、やればわかるのです。

ところが今、社会的養護に委ねられた子どもが『将来にわたって幸福な生活を送る』にはどうしたらよいかということについて、例えば『家庭的養護をすれば』『里親委託をすれば』『小舎制施設にすれば』という提言されていますが、その結果は、証明されていないのです。『将来』とは、何十年もの先のことから、子どもがどうなったかは分からない。統計もない。だから、子どもが国の施策により、『将来にわたって幸福な生活を送る』ことができなくても、だれも責任を取らないし、責任を取れないのです。

でも、円福寺愛育園は私の父母の実践が『将来にわたって幸福な生活を保障した』ことは、二人が亡くなってからも、今私たちがあるのは(『生涯にわたって幸福な生活を送れたのは』)おっちゃんとお母さんに

育ててもらったお陰ですと、訪ねてくることから証明されているのです。ここに、『将来にわたって幸福な生活を保障する養育』とはどんな養育であるかが事実で示されているのです。

父母の養育がどうして亡くなってからも慕われ、育ててもらった人々の心の柱(国の言うパーマネンシー)になって、幸福な生活を保障したかを書きましょう。

1. 養育者に私利私欲、自分のためという心が一切ない。「一切ない」のです。
2. 全てを投げ捨てた。捧げた。家族を捨てた。母は二十代の時代をあかぎれをつくり、声を嗶らし、寝る時間を削り、風呂は汚れた最後に入り、休みを取らず、すべてを子どもたちに捧げた。子どもたちはそれをみていた。

この二つだけをとっても、今の里親や社会的養護に携わる人にできるのでしょうか。理解できるのでしょうか。子どもを育てるとは、こういうことなのです。

私は、社会的養育に携わる人は、このような覚悟を持っていただきたいです。

生涯にわたって養育の影響を受けるのは子どもたちです。それに、子どもたちにどんな養育を受けるかの決定権はありません。その養育によって子どもがどうなるかわからない。誰も責任を取らない。そんな国の施策により、生涯にわたって幸福な生活を送れない子どもたちが可哀想です。

新年を迎えて

主任指導員 T・M

令和7年が始まりました。去年は普段の生活や行事を通して子ども達が大きく成長した事を感じた1年でした。今年も引き続き子ども達の自立につながる成長を手助けしていけたらいいなあと思っています。

さて、この仕事に携わらせて頂き子ども達と接していると、ふと「幸せ」という事について考える事があります。「幸せ」とは他人にしてもらうものなのか、自分でなりにいくものなのか。「幸せ」って相対的なものなのか、絶対的なものなのか。刹那的な幸せが大事なのか、将来的な幸せが大事なのか。何が「幸せ」の定義なのか、はたまたそもそも定義づけができるものでもないのか、、、日々さまざまな事を考えてしまいます。

「子どもの権利を保障し、子どもが幸せを感じればそれが幸せ」と言われた事があります。なるほどと納得した反面、本当にそうだろうか?と感じました。大人だって明確な答えを持ち辛い「幸せ」について、丸ごと子どもに委ねてしまって大丈夫なのでしょうかね?世間を見ると「幸せ」「ある程度今の生活に満足している。」と言いつつ生気の無い顔つきをしている子どもが散見されるように思います。園の子たち(特に男の子)は、あれやこれやと暴言やら悪態がありながらも、普段の顔つきはイキイキした様子があります。私はこれは「幸せ」だと思うのです。イキイキとした顔で生活していける事は大切な事ですよ。考え方も前向きになるし、意欲も湧くし、その分、成長も速くなるし、周囲の人とも積極的にコミュニケーションをとりたくなったり、なんだか「幸せ」というものに向って一直線に動き出している感じがもうすでに幸せという感じがします。

日々、色々大変な事があるのですが、「愛育園の子たちってイキイキしている子が多いよなあ」と、昨年一年の様子からしみじみと思いました。先月12月はクリスマス会を行ったのですが、幼児さんから高校生3年生まで全員が集まって、チーム対抗のクイズコーナーでは年上年下関係なく「はい!はい!はい!」とみんな無邪気な顔でどんどん手を上げて答えている姿がありとても楽しい雰囲気になりました。私はそういう雰囲気が大好きですし、幸せな気持ちになれます。

「子どもが幸せと感じていたらそれが幸せ」たしかにその通りだと思うのですが、それは言葉よりも表情や雰囲気こそ心が表れると思います。だからこそ私は愛育園のこれまでの養育に自信を持って子ども達と接していきたいと思ひますし、令和7年は、「子ども達がイキイキとした毎日を過ごせる」という事を目標に立て、一年間頑張っていきたいです。そして、それには何より私自身や先生方がイキイキとしている事が第一歩ですので、子ども達の未来や可能性に大きな希望を持って臨んでいきたいと思っています。

日頃、ご支援頂いている関係者の皆様、本年もどうかよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

まごころホーム長 S・I

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。
新年を迎え今年の抱負を上げさせていただきたいと思ひます。私の今年の抱負は「挑戦」です。この目標にしようと思ひたきっかけは、昨年の愛育園祭です。毎年行事をやっていると行事内容も似てきてしまうところもありますが、昨年の愛育園祭は書道パフォーマンスや初めて行った飲食ブースなど今までやったことのないものに挑戦しました。当日を迎えるまでに計画を立てたり、毎日準備をしたり、書道パフォーマンスも毎日練習をしました。正直途中ではみんなの疲れた表情も見え、先生や子どもたちに負担をかけすぎてしまったのではないかと心配しました。しかし大変な準備期間があったからこそ、当日すべてが大成功に終わり、終わった後に今まで味わったことのない達成感を感じることができました。今だに子どもたちと愛育園祭楽しかったよね～なんだったら一年間の行事の中で一番楽しかったかも！という話が出るほどです。これほど子どもたちの心に響いているなんて正直びっくりですが、やっぱり頑張った分だけ自分に得るものがあるのだと思ひました。大変なことや、苦手なこと、めんどくさいことなど生活の中で目を背けたくなることもあります。これぐらいなら自分にもできるかも、これはみんなとだったらできるかも、と挑戦したくなるような関わりや環境づくりをしていき、子どもたちが自分自身の成長を感じられるように支えていきたいと思ひます。また子どもたちを支えるにはホームの先生方との連携も必要不可欠です。今年も先生方と協力しながら私たち職員にとっても、子どもたちにとっても実りある一年になるよう頑張っていきたいと思ひます。本年もよろしくお願ひします。

新年の挨拶

調理員 M.M

新年明けましておめでとうございます。
まずは一年の反省が多くあります。
私達調理員の心配りの足りなさ・数々のミスで子供達への不信感を与えてしまいました。
心のよりどころでもある【食事】楽しみにしている【食事】が100%で提供できていなかった事は心より深く反省しております。
それを払拭すべく、新年改め調理員一人一人の心構えが必要不可欠と思われまふ。
各々の言動と行動は異なっているため、子供達に見透かされているように思ひます。
料理には作り手の気持ちが即座に現れてくると思ひます。
心から美味しいものを作ってあげようの気持ちを持ち続け、些細な事にも手を抜かず笑顔で食べてくれる子供達の顔を思い浮かべながら作ることで思いも伝わるのでしょうか？
その様な思いの中で、ホームのT先生から提案を頂きました。

「子供達が食堂に入って手を洗っている時にまだ配膳しても構わないので、温かい物を提供して欲しい」と！

そこで今年の調理の第一目標は、いかに温かい食の提供をするかという事です。
私達も温かく食べて欲しい気持ちは山々でしたが、子供達が席に着くまでには配膳をとの思ひでいましたので、どうしても冷めてしまっていました。
この反省も踏まえながら、一人一人身を引き締め全力でいかに温かく食べてもらえるのかに力を入れていこうと思ひています。

【子供達が食で心が満たされるべき】を胸に秘め、今までの反省と共に日々精進していこうと思ひます。

又一年よろしくお願ひ致します。

『クリスマス会』

まごころ保育士 T・S

先日、園内でクリスマス会が行われました。まごころホームでは小学生から中高生、職員みんなで合奏をすることに決め、2週間前くらいから少しずつ練習を重ねてきました。曲は「赤鼻のトナカイ」と「アイドル」です。鍵盤ハーモニカとリコーダー、タンバリン、鈴、キーボードをそれぞれ分担しました。空いている時間にみんなで談話室に集まって終始和気あいあいとした雰囲気を取り組みました。最初は合わせることも難しく、間に合うのかなと心配もありましたが、まごころのみんなのここぞという時の集中力がすごいで、日に日に完成度が増し、当日もギリギリまで練習をして、当日楽しく演奏することができました。また、今年クリスマス会をどんなものにしようかと計画していく中で、「幼児さんが増えたから喜ばせてあげたいな」という思ひが浮かびました。そこでF先生に全力で本物のサンタさんをやってくださいとお願いすると、本気で衣装や動きをサンタさんに近づけてくれました。実際登場した時の幼児さんたちの表情が心から嬉しそうで、もっと言えば周りの中高生も笑顔になっていて、とても嬉しかったです。その後のレクもどんな内容とルールならみんなが楽しめるかなと試行錯誤しながら準備して、その段階で自分が楽しんでしまい、あれこれ追加しているうちに準備がギリギリになってしまい大慌てでした。でもその分子どもたちが楽しそうにしてくれている姿をたくさん見られて、やってよかったなと思ひます。クリスマス会の後、小学生のMさんが「先生楽しかったよ」と声をかけてくれたのも印象的です。子どもたちのわくわくした気持ちを大切にしていきたいなと改めて感じました。



クリスマス会

あおぞらホーム Y.S

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

12月21日(土)に毎年恒例のクリスマス会を開催しました。自分はクリスマス会係のため色々準備をしてきました。あおぞらではどんな出し物をしようか考え、いつもはお笑い要素の入ったダンスなどをしますが今年はお笑い要素が入っていない「ヲタ芸」をバシッと踊ることに決めました。しかし、手本となる映像で見れば出来そうなものでも実際にやってみると難しく子どもたちからも「無理だー、リタイアするー」という声が最初から聞こえてきました。どうしようか悩みましたがまだ日数もあるし練習すれば何とかかなる。と思い中高生を集めて、「強制ではないから参加は自由でいいけど自分としては皆と盛り上げたいと思って一緒にやりたいよ」という思いを話しました。もしみんなが「じゃあ自分はやらない」と言い出したらどうしようという不安もありましたが正直な気持ちを伝えた上でそれならそれでしかたないと思いました。でも実際には「無理だー」と言っていた子も参加してくれて、毎日の練習も頑張ってくれました。みんなに教えるには自分がまず覚えなければならいたためひたすら自主練をし、また子どもたちのモチベーションが下がらないようにどうすればいいか、バラバラの覚え具合をどうそろえて行けばいいか、などたった1分半ほどの演目でも考えることがたくさんありました。そうこうしているうちに本番は近づいてくるし、そのほかの準備もあるし、日々の指導もあるし、クリスマス会全体はうまくいくだろうかという不安もあるし毎日毎日頭の中がいっぱいでした。しかし、一緒に練習に参加してくれて自分についてきてくれる子たちが日に日に踊れるようになって少しずつ揃ってきているのを見ていろいろな不安も薄らいできて「きっと大丈夫だ」と思えるようになりました。そして迎えた本番はとても盛り上がり、当初予定していた時間も大幅に超えて楽しいクリスマス会になりました。自分についてきてくれた子どもたちには本当に感謝しかありません。翌日、一人一人に「頑張ってくれてありがとう」と声を掛け自分の中でも今年のクリスマス会は無事終了しました。クリスマス会は大きな行事と比べると時間的にも短いですが準備や関わりを通してたくさんの学びや気づきがありました。そういう思いを生かして次はもうスキー行事に向けてどうしようか頭の中は切り替わっています。

クリスマス会

あおぞらホーム A・Y

12月21日にクリスマス会が行われました。各ホームでクリスマス会に向けて準備を進めて来ており、あおぞらホームの中高生では今年大流行したこっこのけんと「はいよろこんで」の曲に合わせてライトを持ち、ヲタ芸の練習を行いました。2週間ほど前から練習を始め、最初は難しく戸惑う様子もありましたが練習を重ねていくうちに子どもたちが上達していく姿はクリスマス会を盛り上げようという気持ちでいっぱいの様子がありました。本番も暗い会場の中で光るライトがとてもきれいで盛り上がりました。練習に参加していたSくんは最初の頃は技の難易度から難しいと嘆いていることもありましたが、練習を重ねていくごとに技の一つ一つができるよ

(令和7年1月10日発行 月刊「円福」532号付録)

うになり、本番ではとても楽しんでいるように感じました。クリスマス会全体を通してまごころさんの素敵なクリスマス演奏があったり、会の後半にはレクリエーションがあったり、会全体を通して盛り上がり、今年のクリスマス会もとても盛り上がりました。

クリスマス会

まごころホーム M・H

今年も恒例のクリスマス会が行われました。まごころホームでは毎年子ども達と職員でリコーダーや鍵盤ハーモニカを使い、演奏を披露しています。今年は、「赤鼻のトナカイ」と、YOASOBIの「アイドル」を演奏しました。曲の速さや指使いの難しさに苦勞することもありましたが、全員で合わせていくことを繰り返していくうちに、一体感が生まれ、どんどん上達している姿がありました。子ども達も職員も一緒に楽しい雰囲気の中、練習する事が出来たため、本番では良い演奏を披露することができ、子どもたちの達成感につながったのではないかと思います。

クリスマス会のレクはとても盛り上がり、グループみんなで協力し、正解できた時はとても嬉しかったです。普段は発言する事や、人前に出て何かをすることが苦手な子も、気持ちを爆発させたり、いっぱい発言していて、このような自分を出せる場があって、すごくいいなと思いました。今年も、子どもたちの心に残るクリスマス会になって良かったなと思います。

クリスマス会 あおぞら児童感想

12月21日の夜に、図書館でクリスマス会がありました。4つのレクリエーションがありました。最初の楽器の演奏はとても良かったです。次のあおぞらの中高生のパフォーマンスは、とても良かったです。

レクリエーションの一つ目は、イントロドンをやりました。知らない曲や知らないCMの曲があって、難しかったです。2つ目は、お絵描きリレーがありました。一回も絵を描けなかったのと、当てるのが難しかったです。3つ目は、名探偵ゲームをやりました。とても当てるのが難しかったです。4つ目は、うまい棒の味を当てるゲームをやりました。すごく難しかったです。クリスマス会は、どのレクリエーションも良かったです。また、来年もクリスマス会をやりたいです。

(小5 A・Yくん)

12月21日にクリスマス会をやりました。クリスマス会では、まごころは合唱演奏しました。楽しい演奏でした。次にあおぞらでは、オタ芸を発表しました。オタ芸は2週間前から学習の時間を使って練習してきたので楽しくきれいに踊れたと思います。次はレクリエーションをしました。4つもあって、イントロクイズをしました。特に一番楽しかったレクリエーションは、以心



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

伝心が特に楽しかったです。全て楽しいレクリエーションでした。来年も楽しみです。

(中2 K・Rくん)

クリスマス会 まごころ児童感想

12月21日にクリスマス会がありました。まず、ライトが点灯したら、まごころがリコーダー、鍵盤ハーモニカ、ピアノで音を鳴らして、「赤鼻のトナカイ」「アイドル」の合奏をしました。次はあおぞらの子たちが「はいよこんで」のダンスを踊ってくれました。サンタさんも来てくれてみんなにお菓子をくれました。寒い中来てくれました。その後レクをしました。四つやりました。誰がマシュマロを食べているのかのクイズや、誰がすっぱいのか、甘いのかを当てるゲームをしました。難しかったけど楽しかったです。次は音楽やCMや、誰の声かを当てるゲームをしました。その次は、絵をかいてみんなで当てるゲームをしました。どのレクもとても楽しくて、いいクリスマス会になりました。

(小5 K・Rさん)

クリスマス会がありました。まず最初に、まごころのみんなで演奏をしました。私は鍵盤ハーモニカを担当しました。今年弾いた曲は「赤鼻のトナカイ」「アイドル」です。私が特に頑張ったのは「アイドル」です。テンポが速くて難しかったけれど、みんなでたくさん練習して本番は間違えずにできたので良かったです。また、その後のレクリエーションもチームのみんなと協力しながら楽しんで出来たので良かったです。とても楽しいクリスマス会になりました。

(高1 Y・Tさん)

今年もクリスマス会がありました。まごころは演奏をしました。私はリコーダーを担当しました。難しい所が何か所もあって全然覚えられなかったけれど、本番ではなんとかしっかり吹くことができたので良かったです。みんなで合わせていい演奏ができ、とても楽しかったです。その後のゲームではチーム対抗で色んなクイズなどをやりました。うまい棒の味を当てるクイズが意外と難しくてわからなかったです。とても楽しいクリスマス会でした。

(高2 S・Uさん)

クリスマスコンサート

まごころホーム N・R

12月7日にクリスマスコンサートが開催されました。

今年は、バイオリンとピアノの演奏を聴かせていただきました。子どもたちはこの日をとても楽しみにしており、どんな曲が演奏されるのか、知っている曲が聴けるか、始まる



(令和7年1月10日発行 月刊「円福」532号付録)

前はとてもわくわくした表情でした。演奏者の方が登場し、バイオリニストの方が子どもたちに寄って演奏してくださいましたが、始まる前の表情とは違いとても緊張した様子の子どもの多くみられました。ただ、クリスマスの楽曲や、ディズニーメドレーなど子どもたちが聴いたことのある楽しい曲になると体を揺らしてリズムに乗ったり、手を叩いて一緒に演奏を作り上げたりして笑顔になり、子どもたちの様々な表情を見ることができました。

手を叩いたり足音を鳴らしたりして一緒に演奏を作り上げる場面では、演奏者の方が丁寧に教えて下さりみんなで演奏することができました。最初はリズムの取り方が難しく苦戦している子もいましたが、段々慣れてきてとても楽しそうに参加していました。Mちゃんは、終わってからクリスマスコンサートで聞いた歌を口ずさんでおり、「楽しかったね、すごかったね」と声をかけると「楽しかった！バイオリンとピアノすごいね」と楽しそうに感想を話してくれました。様々な国や曲調の楽曲を演奏して下さり、子どもたちにとっても職員にとっても濃い有意義な時間となりました。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム A.K

日に日に寒さが増してきましたが、子どもたちは皆、元気に過ごしています。12月8日にはクリスマスコンサートがあり、児童たちは当日を迎えるのをとても楽しみにしていた様子がありました。当日私は参加できていませんが、児童たちの話を聞くと、とても満足している様子がありました。

また、12月はクリスマスもあり、小学生の間では「クリスマスプレゼント、何にしようかな」「レゴがいいかな?」「僕はルービックキューブがいい」など、クリスマスを楽しみにしている様子が伺えました。サンタさんへの手紙には児童それぞれで欲しいものを書き、各児童の性格や良さなどが垣間見ることができた気がします。

12月に入り、雪が降り始めたため、児童たちもとても喜び、朝起きたとき雪が降って、若干積もってきているのを見たHくんは、「先生！今日、雪合戦できる?」と目を輝かせて聞いてきたことがありました。その姿を見ていると、「私も子どもの頃は雪が降るたびに一喜一憂していたな・・・」とふと子どもの頃の事を思い出しました。

雪が降ると土日の活動では雪遊びに出かけることが増えてきます。雪遊びに出かけた日には子どもたちは皆、満足げな表情で帰ってきます。自然の中で思いっきり遊ぶことは、児童たちにとって、とても意味があることだと思います。

寒くなってきましたので、児童・職員ともに体調に気を付けて、元気に過ごしていきたいと思っています。

まごころホームだより

まごころホームK・S

寒さが大変厳しくなる季節を迎えました。まごころホームの子どもたちは、毎日寒さに負けず元気に過ごしています。子どもたちから「先生、外に遊びにいこう」と誘われることも多く、体を動かしてたくさん遊ぶ子どもたちの姿を見て、元気をもらっています。

12月は、大掃除やクリスマス会を行いました。大掃除では、子どもたちと一緒に普段使っている場所の細かい所まで綺麗にしました。幼児さんも一緒に掃除を行い、私と一緒に掃除をしていたFちゃんは「先生、ここもやるよ!」と自分から見つけ一生懸命掃除をしていました。他にもMちゃんは「次どこやる?」と職員にたくさん聞いて、進んで掃除をしていました。みんなで協力して綺麗にすることができたので、新年を気持ちよく迎えることができると思います。クリスマス会では、まごころホームの子どもたちと職員で演奏の発表を行いました。この日のために行ってきた練習では、全体で合わせることに難しさを感じていましたが、練習を重ねるうちに一人ひとりが周りの音を聞きながら演奏できるようになり合わせることができました。本番では聞いてくれている人たちが盛り上げてくれてとても楽しい発表になりました。また、クリスマス会にはサンタさんも登場し、子どもたちは大喜びでした。レクリエーションでもチームに分かれて勝つために本気で挑んだり、とても盛り上がったクリスマス会でした。

一年もあっという間に過ぎましたが、新しい年も子どもたちと毎日元気に笑顔いっぱい過ごせる良い年にしたいです。

調理室だより

栄養士兼調理員 K・H

寒さが身に染みる季節になりました。1年も終わりに近づきしめ縄づくりや、クリスマス会といった子供たちが喜ぶ行事が盛りだくさんです。

《12月の特別メニュー》

4日 初代園長先生御命日メニュー

お赤飯、天ぷら、わかめと豆腐のすまし汁、
白菜の切り漬

5日 Kくん誕生日メニュー

海鮮丼、ピーマンの肉詰め、ポテトサラダ、パインシェイク

9日 Nくん誕生日メニュー

ぶっかけうどん、天ぷら、モンブラン

10日 Fさん誕生日メニュー

オムライス、手作りコロッケ、さけチーサラダ、キャラメルパフェ

(令和7年1月10日発行 月刊「円福」532号付録)

24日 クリスマスメニュー

クリスマスツリーのちらし寿司、ポットパイ、エビチリ
モス風フライドチキン、クリームブリュレ、ジュース

28日 園内もちつき大会

5臼つき、【たらこ、きな粉、小豆、海苔巻き】を食べ、
残りは押し餅にしました。

ますます寒さが厳しくなっていくと思いますが、子ども達には寒さに負けず病気にも負けず元
気よく過ごしてほしいと思います。

